

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	病態制御科学領域 臨床免疫学教育研究分野 渡邊 里奈
指導教授氏名	福田 眞作
論文審査担当者	主 査 田坂 定智 副 査 伊藤 悦朗 副 査 佐藤 温
(論文題目) Diagnostic approach for patients with unidentified fever according to the classical criteria of fever of unknown origin in the field of autoimmune disorders (自己免疫疾患領域における不明熱の古典的分類に基づく診断アプローチ)	
(論文審査の要旨) 不明熱は原因が多岐にわたり、しばしば診断に難渋する。申請者は不明熱の古典的定義を満たす例、満たさない例とで、それぞれの臨床的特徴を比較検討し、定義に基づく診断アプローチの有用性について検討を行った。 2008年1月から2017年12月までの期間に原因不明発熱として精査を受けた患者149例のうち、15歳以下の小児を除外した144例について後方視的に解析した。対象患者を古典的定義を満たす例と満たさない例とに分け、原因疾患(感染症、非感染症性炎症疾患、悪性疾患、その他、不明)の特徴を検討した。古典的定義を満たした例は105例(72.9%)、満たさない例は39例(27.1%)で、いずれにおいても非感染症性炎症疾患が半数以上を占めた。疾患別では、古典的定義を満たす例では成人スティル病やベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症が多かった。一方、古典的不明熱の定義を満たさない例の中には家族性地中海熱など周期熱をきたす疾患が存在し、診断までに長期間を要するものが多いことが明らかとなった。悪性疾患は全例が古典的定義を満たしており、古典的定義を満たす不明熱においては悪性疾患の鑑別が重要であることが示唆された。 本研究では、古典的定義を満たす不明熱の原因として、成人スティル病、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症など血清学的検査や画像検査のみでは診断を確定できないものが多く、確定診断のためには各疾患の診断基準に準拠して総合的に判断していく必要性が示された。また悪性疾患が全例古典的定義を満たした一方で、古典的定義を満たさない例には家族性地中海熱やベーチェット病など周期熱をきたす疾患が存在し、診断に難渋する要因であることが示唆された。 申請者の所属する診療科の特性から原因疾患にやや偏りはあるものの、不明熱について多数例で検討したことは大きな意義をもつ。また原因不明の発熱患者において家族性地中海熱をはじめとする周期熱をきたす疾患の重要性を示したことは臨床的に重要であり、学位授与に値する。	
公表雑誌等名	Immunological Medicine (掲載予定)